

〈著者初の本格住宅論!〉

堀部安嗣

住まいの基本を考える

自然や伝統に調和するかたち。

省エネルギーを実現しながら冬暖かく、夏涼しい室内環境。

独りでいても寂しくなく、家族といっても窮屈でない広さ。

心身のさまざまな状態に呼応する生活動線。

気候風土や人々の記憶を読み解き、

住宅の基本性能を丁寧に考えることで得られる、

豊かな情感。

病めるときも、健やかなるときも、

私たちをあたたく包み込み、

前向きな生へと導いてくれる大らかさ。

住宅建築の名手が今あらためて、

情緒と機能性をあわせもつ

普遍的な住まい〈ベーシック・ハウス〉とは何かを考えた。

その思考と実践の跡を

近作8軒の写真や手描き図面とともにつづる。

情緒と機能性——。

堀部安嗣 ほりべ・やすし

建築家、京都造形芸術大学大学院教授。1967年、神奈川県横浜市生まれ。筑波大学芸術専門学群環境デザインコース卒業。益子アトリエにて益子義弘に師事した後、1994年、堀部安嗣建築設計事務所を設立。2002年、〈牛久のギャラリー〉で吉岡賞を受賞。2016年、〈竹林寺納骨堂〉で日本建築学会賞（作品）を受賞。2017年、設計を手がけた客船〈guntû（ガンツウ）〉が就航。同年、「堀部安嗣展 建築の居場所」（TOTOギャラリー・間）開催。

堀部安嗣『住まいの基本を考える』

定価／2592円（税込） 刊行日／2019年4月25日 ISBN／978-4-10-335292-1 C0052

造本／B5変型（180×210ミリ）・上製本・128頁・オールカラー

ブックデザイン／櫻井久（櫻井事務所）

全国書店およびネット書店でお買い求めください。

